

(1) ・×☐遠遠遠☐×

君 君 (72)×14×2 081

(2) ・☐☐☐伏☐

・☐☐☐☐ (91)×24×3 081

(3) 「佐<sup>[千カ]</sup>☐☐」 (220)×19×2 061

(4) ・☐☐☐や未々末☐×

・☐☐☐や☐☐× (97)×19×9 081

以上、代表的なものを示したが、(1)は遠を筑前国遠賀郡を意識したものとすれば、君は郡になる可能性がある。(3)は曲物の側板に墨書したもので、樹皮で綴じ合わせている。

## 9 関係文献

九州歴史資料館 『大宰府史跡 昭和五十六年度発掘調査概報』

(倉住靖彦)

## 福岡・九州大学(筑紫地区)構内遺跡

1 所在地 福岡県大野城市大字白木原

2 調査期間 一九八一年(昭56)四月～八月

3 発掘機関 九州大学筑紫地区埋蔵文化財調査会

4 調査担当者 西健一郎・赤崎敏男

5 遺跡の種類 不明

6 遺跡の年代 弥生時代～平安・鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

当遺跡は、福岡県春日・大野城市にまたがる旧アメリカ軍基地跡のうち、九州大学に移管された南側の約一九万㎡内に所在する遺跡の総称で、春日市所在の弥生時代の遺跡として有名な須玖・岡本



(福岡)

遺跡の南西方に当る。九州大学では、各施設の建設に先立ち、一九七八年一月より構内の埋蔵文化財についての発掘調査を実施し、これまでに縄文時代の包含層、弥生時代の住居跡・土壇、古墳時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡、奈良時

代の溝跡、平安鎌倉時代の溝跡・水田跡などの遺構を検出した。主な出土遺物には弥生時代の丹塗土器を含む多量の土器、石器、鉄器、ガラス小玉、青磁などがある。

木簡が出土した遺構は北西―南東方向に走る幅2m前後の溝で、国鉄鹿児島本線白木原駅の西約100mの地点に位置する。発掘区が限られていたため溝は約20cm分を検出したにとどまったが、溝内からは八世紀前々中期ごろに比定できる須恵器や土師器とともに木製大型盤が二個、木簡が二点出土したが、前述のような理由からこれらの遺物が本来的に属していた遺構は確認できなかった。またこの溝の南方約300mの地点で奈良時代の版築状遺構が検出されたが、これは大宰府と鴻臚館（筑紫館）とを結ぶ官道の可能性もある。木簡などと直接には関連しないが、注目される遺構である。

# 8 木簡の釈文・内容

- (1) 卅五歩 一院収田一段百七十歩 (175)×(33)×5 081  
 (2) 一院収田一段百七十歩 (175)×(33)×5 081  
 (176)×(24)×5 081

二点とも上端は二次的に切断されている。(1)の左端は文字の間近で切断され、断面も不整であり、二次的切断と考えられる。田積を記しているが、上部を欠損しているの、内容は明らかでない。

# 9 関係文献

当面は未定であるが、将来報告の予定。

(倉住靖彦)

## 福岡・長野遺跡

- 1 所在地 福岡県北九州市小倉南区長野
- 2 調査期間 一九七九年(昭54)五月
- 3 発掘機関 北九州市教育文化事業団
- 4 調査担当者 小方泰宏・木太久守・佐藤浩司・柴尾俊介・山口信義
- 5 遺跡の種類 集落跡・古代官衙跡?・中世豪族居館跡?
- 6 遺跡の年代 古墳時代後鎌倉・室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(小倉・行橋)

長野遺跡は、周防灘に面した曾根平野のやや奥まった低丘陵上一帯に展開している。九州縦貫道小倉東インター工事に伴って調査が今も実施されている。調査は、標高一〇m、二〇mの低丘陵から竹馬川に向って枝状に張り出した支丘陵部を中心に実施している。それぞれの